

学校における若手教員育成

活用ハンドブック②

～学級経営編（小学校版）～

岡山市教育研究研修センター

もくじ

第1章	はじめに	
1	学級経営の心構え	1
2	信頼される教師になるために	2
3	仕事の流れ	3
第2章	学級経営の基礎・基本	
1	学級開きで大切にしたいこと	4
2	学級開きの後は	5
3	環境整備	6
4	児童理解	8
5	特別支援教育の視点を生かす	9
6	集団づくり	10
7	生徒指導	11
8	保護者との連携	12
第3章	学校経営上の学級経営	
1	目標の設定と計画	13
2	PDCAサイクルによる目標の修正	14
3	同僚の先生からの学び方	15
付録	「学級経営（小学校）」チェックシート	16

冊子の見方

若手教員の疑問

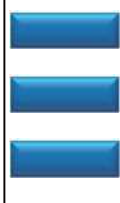


若手教員

答え(提案)



解説



メンターは、

メンターが若手教員に関わるときのヒント



メンター

この冊子は、若手教員には疑問に対しての提案を、メンターには若手教員との関わり方のヒントを載せています。

「学校における若手教員育成の進め方」（平成29年3月）と併せてご活用ください。

OJTとは、

- ・ On the Job Trainingの略
- ・ 校内における日常の業務を通じて、教職員として必要な知識や技能、態度等を意図的・計画的・組織的に高める取組

のことで、

メンターとは、

- ・ 若手教員に指導・助言をする
- ・ 若手教員と校内の教職員をコーディネートする
- ・ 若手教員と若手教員をコーディネートする

人のことです。

1 学級経営の心構え

今なぜ学級経営が大切なのでしょう。



若手教員

岡山市教員等育成指標に基づく確かな学級経営を

学級は、学校生活の中で最も基礎的で、大切な人間形成や集団づくりの素地の場です。先生は、子どもたちが一日の大部分を過ごす学級を「経営する」経営者としての、特別な意味をもつ存在と言えます。

子どもたちの本質そのものは変わらずとも、社会の急激な変化の中で、取り巻く環境は大きく変わっています。ここ10数年間にスタートした特別支援教育の知見も、通常の学級での支援に生かされつつあります。私たち教師はこれまでも、そしてこれからも全ての学級で様々な個性を輝かせる多様な子どもたちを、温かく包み込んで受け入れられる包括的な学級経営力が求められます。

「岡山市教員等育成指標」（平成29年12月公表）でも、学級経営力につながる「児童生徒理解力」「生徒指導力」「マネジメント力」「人間関係力」等が示されました。

時に様々な課題に立ち向かえる強さを求められることもあるかもしれませんが、心のしなやかさも大切に、新しい時代の学級経営に臨んでいきましょう。

この資料では、どの子にとっても安心して落ち着いた生活のできる学級経営を目指し、スタートしていくためのポイントをいくつかまとめました。

学級で最大の環境と言える「先生」。一人一人の個性を生かしながら、子どもたちの実態に合わせたさらなる工夫をしていきましょう。

岡山市が目指す教職員像

未来を担う子どもたちの前に立つ「先生」として、自らの資質能力を磨くために、生涯学び続ける姿を大切にしましょう。

教育に対する揺るぎない

情熱

【使命感】 【向上心】



生涯学び続ける教職員

例えば…

- 使命感をもって教育に携わろうとしている人
- 積極的に校内外の研修に参加し、より優れた教員を目指して、自己研鑽に努めている人
- 児童生徒に積極的に関わり、一人一人の心情や行動を多面的・多角的に理解できる人
- 社会人としての良識を身に付けた対応ができる人

教育の専門家としての確かな

力量

【保育力・授業力】 【子ども理解の力】
【マネジメント力】

総合的な

人間力

【人間関係力】 【人間性】

メンターは、

「岡山市教員等育成指標」を参考に、若手教員一人一人の将来像も見据えながら、学級経営の技を「伝える」、
「つなぐ」という重要な役割があります。



メンター

2 信頼される教師になるために

子どもや保護者から信頼されるには、どうしたらいいですか。



若手教員

「社会人として良識」ある行動を示そう

子どもたちの成長過程で大きな影響を与える教師は、子どもたちや保護者、地域の方からも信頼されるよう努力をしなければなりません。社会人としての良識を身に付け、教育の専門家として信頼され尊敬される存在であり続けるよう、心がけましょう。

信頼される教師のポイント

1 心地よい挨拶とさわやかな笑顔

職員室でも教室でも、相手を思いやるゆとりをもって、心地よい挨拶やさわやかな笑顔ができるといいですね。「挨拶をなさい」の一言よりも、まず先生がお手本を示します。大好きな先生の気持ちのよい挨拶と笑顔を見て、子どもたちは自然とまねをし、笑顔で挨拶できる子どもに育ちます。



目を見て挨拶することで、「かけがえない存在であるあなたを大切に思っているよ」というメッセージを伝えることができます。

2 教師としての身だしなみと言葉遣い

服装や髪型・化粧、言葉遣いは、一個人としてではなく「〇〇学校の先生」としての信頼が問われることがあり、相手を大切に思ふ敬意が自然と表れます。オシャレは自分のため、身だしなみは相手のためにするものです。子どもたちは、先生の身だしなみや普段の何気ないしぐさからも、先生の人間性を感じ取ります。

3 教師がマナーを守る姿を手本に

授業の開始や終了時刻を守ることはもちろんですが、会議や研修に遅れない、5分前行動等も、社会人としての最低限のマナーと言えるかもしれません。急いでいても廊下を歩くのは子ども大人も同じです。

4 自主的な学びの場の探求

信頼される教師であり続けるためには、自らも常に成長を追い求めて止まない心がけが大切です。先輩教師や経験者の話を謙虚に受け止め、分からないことは進んで質問し、学びましょう。



自ら「主体的・対話的で深い学び」ができる先生が、子どもたちのそれを実現できます。教材研究に励み、教師としての力量を蓄えましょう。

報告・連絡・相談を！

困った時に担任一人で解決しようとするのではなく、まず周りの先生に方針を伝えてアドバイスをもらって、チームでの解決を図ることが大切です。



校内の教職員

子どもは全教職員で力を合わせて育てていきます。他の学年や学級の子も同様に、大切に、協力して育てていきます。

メンターは、

若手教員はメンターからすれば「そんなことで!？」というところで悩んでいた、「こんなことで先輩の手を止めてはいけない」と言い出せなかったりすることも多くあります。困っているときは、まずその課題や悩みをしっかりと聞いて寄り添い、適切な助言を行うようにしましょう。

普段から相談しやすい雰囲気づくりを心がけることも大切です。



メンター

3 仕事の流れ

子どもと向き合う時間を増やせるように、効率的に仕事を進めるにはどうしたらいいですか。



若手教員

見通しをもち、優先順位を決めて、仕事に取りかかろう

教師の仕事は非常に大きなやりがいがあります。ただ、各教科・領域等の学習指導や生徒指導、環境整備、学級事務等内容が多岐にわたり、見通しをもって計画的に進めていくことが大切です。

まずは1日の流れをつかみ、行事や単元ごと等の節目を目安に、PDCAサイクルを意識した学級経営をしていきましょう。

教師としての1日

(小学校の例)

仕事	チェックポイント
出勤	時間に余裕をもって出勤 出勤簿に忘れず押印 学校・学年全体の動きも確認
登校	靴箱・教室・トイレ等の点検 窓開け
朝の用意	連絡帳を読む・欠席児童の確認 宿題の点検・朝一番の児童の様子をチェック
朝の会	健康観察(心と体調のチェック) スピーチなどの工夫
授業中	どの子ども分かる、できる授業を心がける 発表しない児童にこそ気を配る
休み時間	子どもの言動・表情・人間関係を観察
給食指導	やけどやアレルギー対応を万全に
掃除	一緒に掃除
帰りの会	1日の振り返りと称揚 明日への希望がもてる工夫
放課後	必要に応じて保護者への連絡 今日すべきこと、今週中にすべきこと等 優先順位を考えて仕事を進める
退勤	先生が元気であることが大切！ 心身ともに健康を保つための取組

<意味やねらい>

前日までに翌日の予定を把握しておきますが、出勤後変更がないか、行事黒板やメモ等を確認し、学年・学校全体の動きも頭に入れておきます。そうすることで、何か急に対応が必要になった場合、誰がどう動けばよいか、迅速に判断して動くことができます。

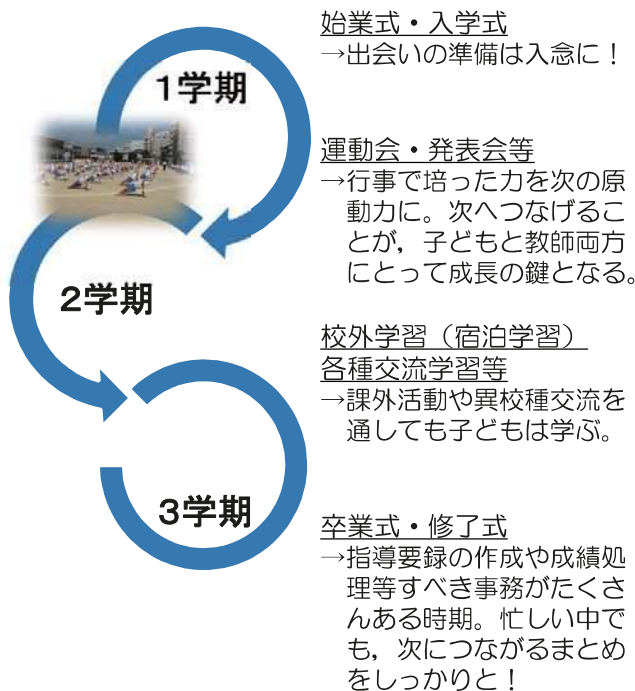
靴箱にも目を配り、子どもの小さな変化に気付いて、勉強に向かう気持ちを育てていけるといいですね。

休み時間は子ども同士の関係を把握し、子どもと温かい人間関係をつくるチャンスです。

一緒に遊んだり、他愛もない話をしたりすることにも必ず意味があり、先生自身の魅力を伝えたり、叱った後のさりげないフォローをしたりすることができます。

時にはトラブルを未然に防ぐこともできます。

1年の流れを見通して



気持ちよく働くために

机の上は片付いていますか。
今日一日の仕事を整理し、翌日のスタートに向けて、自分の机の上を片付けるとともに、頭の中もすっきり整理して退勤したいものです。「お先に失礼します。」の一言も忘れずに！

メンターは、

誰でも最初は仕事の優先順位が分からないもので、経験を積みながら次第に計画的に進められるものだという視点で温かく見守ります。始めは手本を示して、仕事の意味やねらいを伝え、正確さも把握します。効率的な学級事務の進め方や働き方を模索する姿を励ましながら、同僚としてともに成長しようと心がけましょう。



メンター

2

学級経営の基礎・基本

1 学級開きで大切にしたいこと

学級開き、緊張します。



若手教員

出会いを大切に、安心と安全を感じさせよう

4月は新しい学年の始まりに期待をもち、いろいろな指導や支援の言葉を素直に受け入れようとする心の準備が整いやすい時期です。以下の3つのポイントを参考に、見通しをもって学級開きに臨みましょう。

出会の準備は入念に！

これから1年をともに過ごす子どもたちとの新しい出会いのため、学年団や他の先生方との準備や会話の中から、出会のイメージをつくります。環境整備から自己紹介の仕方に至るまで、時系列で子どもと自分の動きを想定し、伝えたいことを考えていきます。

始業式に向けて考えること（例）

当日の流れを確認	最初の学級活動では	下校までにすべきこと
<ul style="list-style-type: none"> ・登校後の指示 ・式後の動き（教師の動き、児童への指示内容） ・雨天時の場合の変更点等 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学級の児童の点呼や健康観察 ・担任の名前や特技等、自己紹介の内容と仕方の工夫 ・児童へ伝えたい願い等 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の場（教室・靴箱の位置等）を確かめる ・教科書配付 ・配付物の確認 ・連絡 ・翌日の登校後にすること等の指示

※名簿の作成、靴箱やロッカーの割り当て、学校・学年通信などの配付物、提出物の確認等もあります。

名前を覚えよう

子どもの名前が読めますか？最初の出会いで自分の名前を間違えられるとつらいですね。出席番号とともに、出席簿や指導要録等を確認して正しく名前が読めるようにしておけば、子どもからの信頼もぐっと高まり、新しい学級での日々を楽しむことができるでしょう。



出会い

温かく、毅然とした態度で

先生が明るく笑顔で子どもたちに接することで安心感を与え、毅然とした態度を示すことで学級が安全な場所であることを伝えます。心や体を傷つけるような行為やいじめ等を絶対に許さないことを示し、先入観に捉われずどの子どもに対しても平等に接することを伝えます。

学級開きで伝えたことは、ぶれずに1年間守ります。

最初の3日～1週間

学級のシステム作り

ルールは明確でどの子どもにも分かりやすいものにします。きまりが複雑だったり、場面によって違ったりするとトラブルの原因になります。

先生の期待に応えようと頑張るこの時期だからこそ、できるだけ短期間で学級のシステムを作ります。

メンターは、

年度当初はすることがたくさんあります。することリストを作り、優先順位を伝えましょう。

また、学年初めはつい教員主導になりがちです。子どもや保護者から見た視点での助言も大切です。



メンター

2 学級開きの後は

学級の規律を高めたいのですが、
どのような取組をすればよいでしょうか。



若手教員

子どもの動き、心の動きから、学級の規範意識を高めよう

最初の3日間から1週間で、重点的に学級のシステム作りをしたら、学級経営が軌道に乗るよう、係活動や当番活動等を児童だけで進められるように分かりやすく示しているか、確かめます。

規範意識を高めるポイント

最初の1ヶ月

① 始業前の準備の指示を明確にし、気持ちよくスタートさせる。

・朝一番の活動がスムーズだと、1時間目の学習から意欲的に臨みやすくなる。

② 学級目標をつくり、学級への願いを共有する。

・学級目標を一緒につくっていく過程そのものに、大きな価値がある。

③ 係活動をスタートさせ、子どもの主体的な活動をしっかりほめる。

・係活動での具体的な姿をほめて、自分の頑張りが学級のために役立っていると実感させる。学級への帰属意識が生まれ、自己有用感が高まる。

④ よい行いを称揚することで、学級の規律を整える。

・「～してはいけません。」と指摘するだけでは次の行動につながらない。よい行動を積極的に見つけて具体的に称揚することでモデルを示し、学級の規律を整えていく。

⑤ どの子も「分かる、できる」授業の中で、学級経営を意識して展開する。

・子どもは「分かるようになりたい」、「できるようになりたい」と思って来ている。授業の中でも一人一人の成長を願い、人間関係づくりを意識することが大切。

学級目標づくりのポイント

学級目標をつくる過程では、自分たちがどういう存在を目指したいか具体的なイメージをもたせることができます。目標を明確にもつことで、仲間として一緒に前に進んでいける集団が育ちます。

教師の願いを伝え、子どもたちに夢を語らせて、みんなで目指す姿が行動に移せる、具体的な学級目標をつくりましょう。

1 目標を決めるまでの過程を大切に！

2 目標を達成するための
場面と方法を考えておく。

理想の
学級の状態

様々な行事を通して

各教科・領域等の
指導を生かして

現在の
学級の状態

3 1年の見通しをもち、
「いつ、どんな」手立て
をするか明確に計画を立てる。

メンターは、

学級目標は、ついつい掲げられたままになることがあり、若手教員にとって、絵に描いた餅、ただのキャッチフレーズになりがちです。様々な行事を通して成長する子どもの姿を具体的にイメージさせる等、学級での生活が学級目標にリンクさせられるよう助言しましょう。



メンター